

<巻頭言>



最近思うこと

田代民治*

私は入社以来、26年間、川治ダム、巖木ダム、宮ヶ瀬ダム、温井ダムとダム現場を中心に従事し、土木技術者としての基本をダムから学びました。その後8年間は、東京土木支店に移り、これまでとは畑違いの都市土木の現場支援や現場管理の経験をしてまいりました。またここ数年は、本社に移り、海外工事を含めて、工事全般を管理しております。

現在、ダムを含めて土木業界は、外部からの批判のみならず、内部も混乱し、これを脱する確固たる行先さえ見出せない状況にあります。

今回、「大ダム」の巻頭言を書けとの身に余る機会を戴きましたので、拙い私の経験をもとに、ダムそして土木全体に対する思いを3点ほど述べさせていただきます。

第一は土木業界に関することですが、混乱を脱するために、総合評価方式をはじめ技術力の勝負に力を注いでいます。他の産業界を見れば、自動車業界のハイブリット車、電機業界での液晶テレビ、携帯電話の機能向上等まさに熾烈な技術勝負の中で発展しています。土木業界はすぐに他産業ほどの技術勝負は無理とは思いますが、『みんなで仲良く』一辺倒となりがちな世界から脱して、技術勝負に徹していくことが必要です。技術競争が出来なければ、コストのみの競争しかありません。

その中で、ダム技術者は土木技術の基本的な要素を多く学んでいるので、技術競争の先頭に立てる力があるはずです。

発破での岩盤掘削、大型重機での大土工、骨材の採取・製造を含めたコンクリートの製造・打設、フィルダムでの材料選定・採取・盛立、注入による基礎処理等他の土木の工種ではあまり経験の出来ない基礎的な工種を経験しています。さらに河川転流、仮設備、工事用道路、付替道路等を含めると土木における多くの工種を経験しているのです。

これらの経験は、多くの工事の総合的な施工計画や技術提案の際に、重要な要素として生きてくるはずですし、また海外の大工事では、生コン打設では経験できないコンクリート製造等の基礎技術を含めて、多くの経験が貴重となるはずです。

ダム技術者は本業のダム建設のみならず、まだまだ活躍の場が存在すると期待しています！

第二は、ダムを代表格に無駄と言われているインフラに関することです。

* 鹿島建設(株) 取締役専務執行役員、土木管理本部長

「洪水はいつか起こる。その洪水に対する安全性の確保を、何もしないで一か八かに掛けるのは無責任。土木技術者は専門家として、その必要性に耳を傾けてもらい、理解を得るべき。」ある先輩の言葉ですが、とにかく批判に対して根気よくその必要性を訴え、かつ真摯に取り組む姿勢が重要と語ってくれました。

数百年前に当時は批判を受けて作ったインフラが、今でも機能しているものも多々あります。ある農業ダムで、下流域の町長が「作物の種は他所から調達できるが、水は現地で調達するしかない。だからダムに期待している。」との発言があり、心に残りました。

ところで、昨今はインフラ批判に加えて、土木業界の混乱が続いており、これが現場の魅力をなくして、インフラ整備に取り組む原動力である『物造りの喜びと誇り』を失わせる傾向が出てきています。その結果、厳しい現場の仕事に耐えて黙々と働く土木技術者や熟練作業員を失っては大変です。

今土木技術者は、インフラ批判への取り組みと共に、その原動力である最低限の現場環境の改善に注力することが急務となっています。

第三は、混乱打破のキッカケ作りです。ダム部門ではCSG工法の海外進出を含めた取り組み強化を挙げたいと思います。

今年ブラジルで開かれた国際大ダム会議の大会では、日本ブースで、『より早く、より安全で、より安いダム新工法』のキャッチフレーズのもとCSG工法一本に絞った宣伝映像・資料を作って紹介しました。

これまでは、費用を負担した機関や会社の宣伝中心のブースでしたが、今回は日本チーム一体となって『CSG工法の売り』を主眼に新しい試みとして実施した結果好評を得ました。

今の業界の新しい試みの一つとして、今回CSG工法誕生を機に、同工法を日本の技術の目玉として海外にも売り込もうとの機運が高まり、ブラジル大会で第一歩を踏み出しました。また、2012年国際大ダム会議の大会が京都で実施されることも決定しましたし、これも大きな力になると思われます。

そのためには、日本チームが海外を意識して一体となり、『日本で生んだCSG工法の大命題のスピードと低コスト』の追及を絶対に忘れないことだと思います。またこの施工技術確立には、世界の要望を常に念頭に置き、ダム技術者の真の技術力を駆使して挑戦する必要があると確信しています。過去のダムを紐解くと、当時の官学民の技術者が海外技術に対し、真摯な挑戦で幾多の困難を団結して克服してきた姿勢が見えてきますが、これらも参考にすべきと思います。

このような海外戦略が、ダムのみではありませんが、土木業界改善の「キッカケ」の一つになるのではと密かに感じています。

取りとめもなく記述しましたが、混乱しているダムそして土木業界を何とかしたい気持ちを含めて最近の思いを申し述べました。